

広 報 た な べ

田 辺 町 役 場

TEL 山城田辺
07746-0-0271

発行人 京 都 府 田 辺 町
企 画 文 書 課
印刷所 奥 田 印 刷 K K



(フォート田辺所属・田原双美さん撮影)

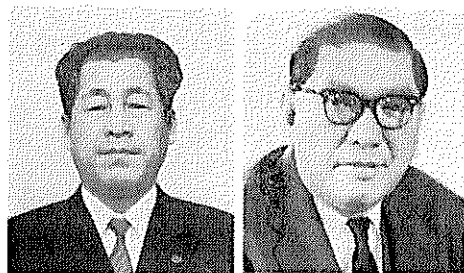
'70.1
No. 73

町内を横断する、新国道397号線ノ

17年間の夢みのり、このほど国道に昇格なった彦根・水口一枚方線は、彦根市を起点として水口町から宇治田原町に入り、本町の中心部を横断して枚方市に通じる延長105キロの道路。この新国道によって脚光をあびる本町の70年代に寄せる期待は大きいものがあります。

ことし成人式をむかえられたみなさん、おめでとうございます。

70年代をむかえて



むずかしい年を切りひらき
力を合わせしあわせの道
を

京都府知事 蛭川 虎三

みなさま、明けましておめでとうございます。年頭にあたり、まずもってみなさまはじめご一家のご健康とご繁栄をお祈りして新年のごあいさつといたします。川の流れるように、時の流れにも、くぎりがないように思われますが、わたくしたちの暮しには、自然に四季のうつろいのあるように、新年だ、盆だ暮れだというように、いろいろの行事があつて、暮らしのくぎりをつけております。その中でも、年が明け、新しい年を迎えると、なにかことしこそはと思わないでいられないような気持ちになるものです。ことしこそは、いゝ年でありませうようにと祈る人もありましようし、ことしこそは大いにならばろうと決意を新たにされる人もありましよう。どういふことを祈り、またどういふことを願うにしても、しあわせな暮らしを望んでいることに変わりはありません。自治体京都府の使命とその仕事は、わたくしが、つねづね申しておりますように、みなさまの暮らしを守り、しあわせな暮らしをつくり出してゆくことにあります。

が、なんといいても、ことしは、敗戦後の日本でいちばん「むずかしい年」だと考えております。これは、たゞ、一九六〇年代が終つて、いよいよ一九七〇年代が始まるというだけではなく、国内的にまた国際的にも、ことしは、まるで問題のふきだまりのような年になつてしまつたからであります。ここに一つ一つ論じている余裕はありませんが、わたくしたちの日本が、これらの問題をどのように解決し、その道を開いてゆくか、まづたく重大な年といわなければなりません。したがつて世の中もさわがしくなりましようし、政治、経済、社会の動きもはげしくなることでもあります。このことは、あらかじめ、わかつていたことで、京都府

としては、府民の暮らしを守ることを目標にして、「憲法の道」を力強く、しかも科学的に進めば府民の期待にこたえられるという確信のもとに行政をすすめ、またあらゆる努力をして参りました。みなさまもご承知のように、このむずかしいことしに備えて農林漁業や中小企業の経営やその組織の強化につとめてきました。またそこに働くひとびとの暮らしを守り、これをよくするために、労働施策はもちろんのこと、民生、保健衛生の施設施策に万全を期して参りました。また、わたくしたちは、京都府が誇りとする文化、教育の施設を完成し、ことしから府民のみなさまにひろく利用していただきたいと思つております。

繰り返すようですが、ことしは、むずかしい年です。府民のみなさまのご支援とご協力をえなければ、いかなる施策施設もその力を発揮することはできません。したがつて、ことしで特にお願いしたいことは、みなさまの経営や暮らしを、むずかしい年の経営、暮らしを十分にご利用していただきたいということです。京都府は府民みなさまの暮らしの組織だからです。わたくしも、みなさまのご支援とご協力によりまして、みなさまとともに、ここに京都府知事として二十回目の新年を迎えることができまして、こんなうれいしい、しあわせのことはない感謝いたしております。そして、この感謝をむずかしい年を切り抜ける仕事で現わしたいと決意いたしております。ことしこそ、わたくしの学生だ学問と二十年の地方行政の経験を生かしてあらゆる努力をささげたいと願つております。どうか、みなさまのいっそうのごべんたつを願つてやみません。終わりのにぞみ、かきねて、みなさまのご多幸を祈り、しあわせは、わたくしたちが、ともども力を合わせてつくるものであることを申しあげて、新年のごあいさつといたします。

新しい町づくり

への夜明け

緑のある健康な

都市をめざす

町田町長

原田喜代次

輝やかなしい初春をむかへ、つづいてみなさまにごあいさつを申しあげ、ご一家のご多幸を心からお祈りします。私は昨年、町政の推進のために、楽しい生活をみちびく環境づくり、老人やこどもの幸せを生みだす社会づくり、産業を伸ばし明るい家庭づくりという三つの柱をかかげ、その目標に向つて町議会の議員みなさまや町職員とともにがんばつてまいりました。ことしは、いゝ年でもなく困の外にとつて重要な年であるといわれましよう。本町でもことしは、七十年代の第一歩として新しい町づくりの夜明けであるといえましよう。それに昨年末には彦根水口・枚方線が国道に昇格し、いよいよ本町も近畿の中心として新しい脚光をあびる日も近づいてましよう。さて、本町も今日まで日々装いを新たにしていまいりましたが、さらにこれからは、この過去の基礎の上に立つて、新しい町づくりを進め

てまいります。そうした意味からことしは町としても近年にない、もっとも重大な時機に直面した年であるといえ、いゝ年でも過言ではないと思つてましよう。私は「自然と人工との調和のある町」を緑のある健康な都市（まち）づくりの理想としてましよう。そのためにはことしは、昨年の三つの柱をさらに進めるため、具体的に四つの施策を中心に着々実現化をはかりたい考えです。その一つに、都市計画事業の推進があります。現在進めています、土地利用計画も、ほゞその原案がまとまりつつあります。これを基として、町内の道路網の拡充とあわせ、町の主要道路をさらに全面舗装をし、下水路を整備しなければなりません。そして公園や緑地などの各種公共施設を充実させてゆくことによつて町全体の基礎を整備できましよう。ますこれが町づくりの先決問題でもありましよう。

(四頁下段へつづく)

70年代をむかえて



むずかしい年を切りひらき
力を合わせしあわせの道
を

京都府知事 嵯川 虎三

みなさま、明けましておめでとうございます。年頭にあたり、まずもってみなさまはじめご一家のご健康とご繁栄とお祈りして新年のごあいさつといたします。川の流れるように、時の流れにも、くきりがないように思われますが、わたくしたちの暮しには、自然に四季のうつろいのあるように、新年だ、盆だ暮れだというように、いろいろの行事があって、暮らしのくぎりをつけております。その中でも、年が明け、新しい年を迎えると、なにかことしこそはと思わないでいられないような気持ちになるものです。ことしこそは、いゝ年でありますようにと祈る人もあります。し、ことしこそは大いにがんばろうと決意を新たにされる人もあります。よう。どういうことを祈り、またどういうことを願うにしても、しあわせな暮らしを望んでいることに変わりはありません。自治体京都府の使命とその仕事は、わたくしが、つねづね申しておりますように、みなさまの暮らしを守り、しあわせな暮らしをつくり出してゆくことにあります。

が、なんといいても、ことしは、敗戦後の日本でいちばん「むずかしい年」だと考えております。これは、たゞ、一九六〇年代が終って、いよいよ一九七〇年代が始まるというだけではなく、国内的にまた国際的にも、ことしは、まるで問題のふきだまりのような年になってしまったからであります。ここに一つ一つ論じている余裕はありませんが、わたくしたちの日本が、これらの問題をどのように解決し、その道を開いてゆくか、まったく重大な年といわなければなりません。したがって世の中もさわがしくなりましようし、政治、経済、社会の動きもはげしくなることでもあります。このことは、あらかじめ、わかっていたことで、京都府

としては、府民の暮らしを守ることを目標にして、「憲法の道」を力強く、しかも科学的に進めば府民の期待にこたえられるという確信のもとに行政をすすめ、またあらゆる努力をして参りました。みなさまもご承知のように、このむずかしいことしに備えて農林漁業や中小企業の経営やその組織の強化につとめてきました。またそこに働くひとびとの暮らしを守り、これをよくするために、労働施策はもろんのこと、民生、保健衛生の施設施策に万全を期して参りました。また、わたしたちは、京都府が誇りとする文化、教育の施設を完成し、ことしから府民のみなさまにひろく利用していただきたいと思っております。

繰り返すようですが、ことしは、むずかしい年です。府民のみなさまのご支援とご協力をえなければ、いかなる施策施設もその力を發揮することはできません。したがって、ことしで特にお願いしたいことは、みなさまの経営や暮らしを、むずかしい年の経営、暮らしと考えて、注意深く研究し、それによってまた京都府の施設を十分に利用していただきたいということです。京都府は府民みなさまの暮らしの組織だからです。わたくしも、みなさまのご支援とご協力によりまして、みなさまとともに、ここに京都府知事として二十回目の新年を迎えることができまして、こんなうれい、しあわせのことはないと感謝いたしております。そして、この感謝をむずかしい年を切り抜ける仕事で現わしたいと決意いたしております。ことしこそ、わたくしの学んだ質問と二十年の地方行政の経験を生かしてあらゆる努力をささげたいと願っております。どうか、みなさまのいっそうのごべんたつを願ってやみません。

新しい町づくり

への夜明け

緑のある健康な

都市をめざす

原田喜代次

輝やかなしい初春をむかへ、つつしんでみなさまにごあいさつを申し上げ、ご一家のご多幸を心からお祈りします。私は昨年、町政の推進のために、楽しい生活をみちびく環境づくり。○老人や子どもの幸せを生みだす社会づくり。○産業を伸ばし明るい家庭づくり。という三つの柱をかかげ、その目標に向かって町議会の議員みなさまや町職員とともにがんばってまいりました。ことしは、いうまでもなく国の内外にとって重要な年であるといわれています。本町でもことしは、七十年代の第一歩として新しい町づくりの夜明けであるといえましよう。それに昨年末には彦根水口・枚方線が国道に昇格し、いよいよ本町も近畿の中心として新しい脚光をあびる日も近づいています。さて、本町も今日まで日々装いを新たにしていまいりましたが、さら

にこれからは、この過去の基礎の上に立って、新しい町づくりを進めてまいります。そうした意味からことしは町としても近年にない、もっとも重大な時機に直面した年であるときえいっても過言ではないと思っております。私は「自然と人工との調和のある町」を緑のある健康な都市（まち）づくりの理想としています。そのためにはことしは、昨年の三つの柱をさらに進めるため、具体的に四つの施策を中心に着々実現化をはかりたい考えです。その一つに、都市計画事業の推進があります。現在進めています、土地利用計画も、ほゞその原案がまとまりつつあります。これを基として、町内の道路網の拡充とあわせ、町の主要道路をさらに全面舗装をし、下水路を整備しなければなりません。そして公園や緑地などの各種公共施設を充実させてゆくことによつて町全体の基礎が整備できうるものと考えています。まずこれが町づくりの先決問題でもありましよう。（四頁下段へつづく）



明日の農業を考えよう

農地を残そう！

町農業青年の要望

農委の希望もてぬいまの農業アンケートは

が六十パーセントありました。また「市街化区域」と「市街化調整区域」の内容については「少し知っている」が五十パーセントです。過去二回本紙でもお知らせしましたので、ご覧いただいた人もあるかと思いますが、そしてこの両地域のどちらを希望するかという問には「市街化調整区域」と答えたのが四十パーセントあったのに対し、「市街化区域」を望んでいるのが三十三パーセントありました。

町ではいま、新都市計画法に基づき町づくりを、みなさんの声をその中に反映させながら計画の樹立を急いでいます。それに先だって、町農業委員会では、農家のみなさんの意向を聞くアンケートを昨年実施されました。

このアンケートに該当する町内の農家は千八百三十四戸で回答は千七百七十二戸となり回収率は六十四パーセントとなっています。

アンケートの中でも「新都市計画法をよく知っているか」という質問に対しては「よく知っている」と答えたのが十六パーセント。「少し知っている」と言うの

その「市街化区域」の指定を希望している理由には、「農地が自由に売れる」が三十二パーセント、「いづれ農業をやめるから」が二十九パーセント、「地価が上がるから」が十七パーセントとなっています。

こんごの農業に対する意見として「農業にやりがいがある」と答えた人は、わずかではありますが「都市近郊農業としての町の発展に期待しそれを育てる必要がある」とか「集約的に野菜やハウス園芸を中心に経営の近代化をはかる」、「共同出荷に力を入れるべき」、「特産物への奨励や補助を」、「耕地整理の推進」など積極的な農業ととりくむ意欲がみられま

す。また十二月に開いた「町長と町農業青年クラブ員との対話のつどい」でも、出席した十四名の農業青年のみなさんは「開発によって激しく変貌する中で農地を守ることは、むづかしいが、我々は農業青年だから農地を守って行きたい。だから町ももっと農地を守り残すべきだ」と口々に訴えておられます。そして新都市計画法の実施を一日も早くしてほしいと希望しておられます。

しかし、アンケートによる大かたの風潮は、農業に対しては期待よりも悲観的で、祖先伝来の農地を手放したくない気持をもち米作を主体とする現状維持の農業を待つというゆるる兼業農家がこんごもさらにふえるだろうと思われる。

これも国の農政が混迷をつづけていることに大きな原因があると思えます。国は総合農政の推進のため米の過剰から米作を抑制して、畜産とか園芸の振興を図ろうとしていますが、私たちがこのアンケートの結果をふりかえって、これからの農業のあり方を、まず自ら考えてみる必要もあるのではないのでしょうか。

◎町農業委員会から示めされた農業振興上保全を要する優良集団農地面積

地区	面積	農地面積 (44.41%)		優良集団農地面積 (単位 ha)	
		左の面積 (A)	右の面積 (B)	①/④	③/⑥
田 辺	1,090	298	27.3%	109	36.6
大 住	991	363	36.6	236	65.0
草 内	496	231	46.6	118	51.1
三 山 木	496	220	44.4	139	63.2
普 賢 寺	1,288	230	17.9	36	15.7
計	4,361	1,342	30.8	638	47.5

参考 1 現在の都市計画資料で、農地面積1,342haのうち、約13%にあたる174ha程度が市街化調整区域から除外される見込みです。
 2 昭和38年4月1日現在の農地面積1,443haと昭和44年4月1日現在の農地面積1,342haとを比較してみると、過去6か年間に約100haの農地が、農地以外の土地に転用されたことになる。(1か年平均17ha)
 3 上記優良集団農地は原則として市街化区域に含まないものとする。

整区域が決定された際、居住または業務に使用する建築物の建築の目的で土地をもっていた者が、決定の日から六か月以内に知事に届け出た場合は、五年間を限度として、その開発行為は許可されることになっています。

最後、この計画が決定された後の税問題については、現在国で検討されている段階であり、明確にはいえませんが、ただ現行制度では都市計画事業が実施された場合において、都市計画区域内にある土地や建物に対してその評価額の千分の二以内の都市計画税を課税できるとなっていました。ところが、こんごは市街化区域内の土地や建物についてのみ評価額の千分の四以内の都市計画税を課税できるというように改められるようです。

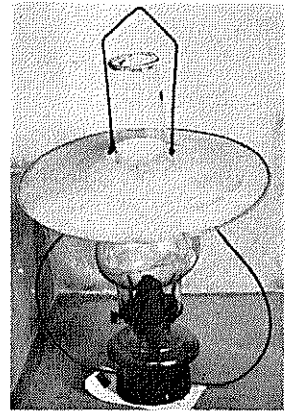
また、市街化区域内に入った農地が評価替えによって宅地なみに評価され、固定資産税や相続税等の税負担が将来大巾に増加するのではないかと質問をよくうけますが、国の方針が明らかにされていない現在ではなんともいえません。

ただ町としては、農業を続けていく人達を守るため、かねて京都府町村会を通じて国に対し農家の税負担が過度にならないよう強く要望しているというのが、この町の方針がはつきりしたときは、本紙をもってお知らせします。ご理解をえたいと思います。みなさんの建設的なご意見やご希望をぜひしとお聞かせください。

(文責・前川)

道路や河川はみんな美しくしょう。

おしらせ
住 民 室
おしらせ



ふるさとの民具⑤
ラ ン プ

モダンな公民館建つ

松井・河原・興戸・新興戸に

昭和四十三年度に四つの公民館 事、ボイラー、管理入室で、二階が建設されました。

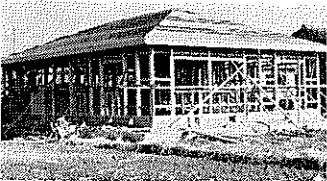
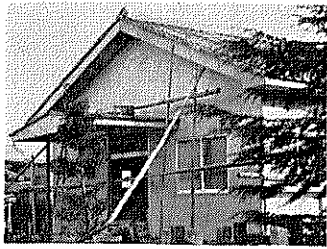
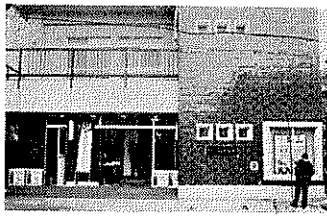
河原、松井、新興戸、興戸など 二室もあるデラックスなもので、

(写真上から)は、松井財産区の 河原公民館は、延百三十八平方

メートルで暖房つきです。階下 興戸公民館は、延百五十七・八

は応接、会議室二室、放送、炊 平方メートルで会議室三室、それ

方メートルで暖房つきです。階下 興戸公民館は、延百五十七・八



田辺・草内・大住 保育所
三山 木・普賢 寺

昭和45年度

保 育 児 募 集

申し込みは
45年1月31日まで

くわしくは、各保育所
または役場福祉課まで

犬の買いあげは…

昨年1年間の

町では、昨年四月から野
犬、廃犬対策として犬の買

いあげを実施しています。昨年四
月から十二月までの九か月間で買

いあげた犬は合計二百五十四匹で

つぎのとりの結果がでています。

野犬(一匹につき二百円)二十一匹

廃犬(一匹につき五十円)六十三匹

小犬(一匹につき三十円)百七十四

匹。こども野犬をなくするため、

みなさんのご協力をおねがいしま

す。

寝たがり老人に

特殊ベットを貸与

町では、ことしの町の方針であ
る、老人や子どもの幸せを生みだ

す社会づくりの一つとして、この

ほど郡ではじめて寝たがり老人用

のハンド形式特殊ベット四台を贈

入しました。ハンド操作でベッ

トが上下し食事用の机もついてい

ますので寝たままでも食事もできま

す。このベットは無償でお貸しす

ることになっています。

春に花咲く二万球

チューリップとスイセン

町の公民館活動として、
かねてから花いっぱい運動

をすすめています。昨年
は、九月に町の老人クラブ

や婦人会を中心に、チュー
リップとスイセンの球根を

あつせんしました。

チューリップでは一万八

千八百三十球、スイセンは

二千二百八球の申し込み
がありました。

町の危険か所に
カーブミラーや

ガードレール

町では、かねてから安全街灯や
防犯灯を増設していますが、昨年

交通安全対策事業として町内の府

道や町道の三差路、危険なカーブ

などにカーブミラーを十七か所、

ガードレールを六か所設けまし

た。この工費は四十九万七千円で

カーブミラーは九型と角型の二種

類の二面鏡でデラックスなもので

す。